



安威川ダム魚類等調査

安威川ダムの建設が河川環境に及ぼす影響を把握するため、安威川の魚類とその餌となる付着藻類や底生動物などの水生生物の生息状況を調査しています。

安威川ダムとは？

- 大阪府では、一級河川安威川流域の洪水を防ぐために、安威川ダムを建設しました。
- このダムの完成により、時間雨量80ミリ程度かつ日雨量250ミリ程度の大雨を想定した、ダムの下流域の洪水被害を防ぎます。
- 2022年9月から試験湛水を開始しました。翌年5月には最高水位に到達し、6月に最低水位まで下がりました。
- ダムの湛水により、下流の水質や流量、河床の構造などが変化します。それらが河川環境、ひいては生物相に及ぼす影響を把握する必要があります。



完成時の安威川ダム（湛水によって写真左側が水没する）



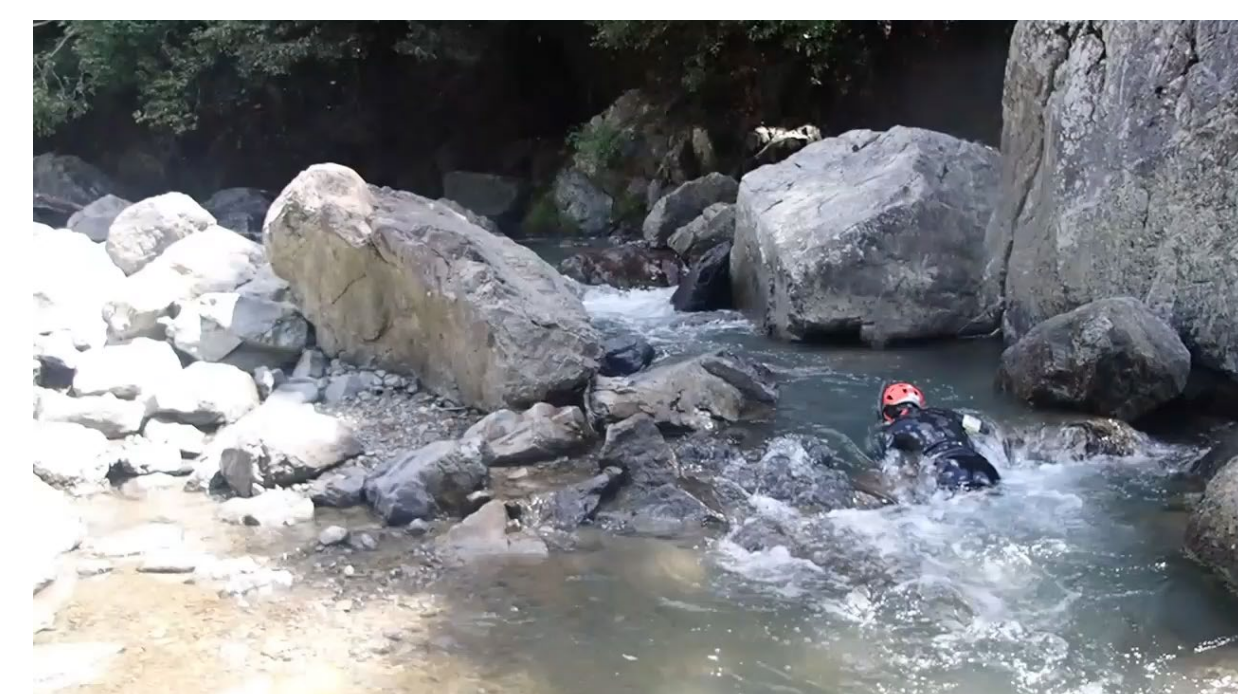
湛水後の安威川ダム（堤体上から）

安威川にすむ水生生物とその調査

- 安威川にすむ多くの生物が生きるために、適した環境や必要な餌などの現状を、様々な方法を用いて調査しています。
- 安威川には、国の特別天然記念物のオオサンショウウオや大阪府RL絶滅危惧Ⅰ類のアジメドジョウなどの希少な生物をはじめとする様々な生物がすんでいます。
- 川の生物多様性は、適度な頻度・規模の増水により保たれています。ダム稼働後も調査を継続し、計画的に水量を一時的に増やすこと（フラッシュ放流）でダム下流の生物相が維持されていることを把握しています。



川底の石に付着する生物の調査



潜水による魚類の目視調査



オオサンショウウオ



アジメドジョウ



フラッシュ放流前後の安威川の様子（左から前後）

写真提供：茨木土木事務所